

424 学級内における対人的知覚の研究 (VII)

大橋正夫(福井大学)

これまで $p \rightarrow q$ の態度 R_1 , $p \rightarrow o$ のそれ R_2 , $q \rightarrow o$ のその p による知覚 R_3 の関係を分析してきたが、結果は、Heider の均衡理論と一貫したくない違いを示してきた。ここでは、前報に続いて資料収集法の影響をみる。 S_3 に対し(1)特定の q の他の全級友に対する態度、(2)特定の o に対する全級友の態度を知覚せしめた。その結果両場合とも、 R_3 の平均評定値は R_1 の符号いかんにかかわらず R_2 が正のときは常に有意な正、負のときは負であった。また $q \rightarrow o$ の実際の態度の効果を一定にしたときの R_2 と R_3 の偏相関係数は常に有意な正であった。これは従来の結果と本質的に一致する。ただし方法の差による影響も若干みられた。すなわち平均値の絶対値・相関係数とも(2)においてより大であった。

425 学級成員相互関係の改善性の予見について

長田雅喜(名古屋大学)

学級における対人関係の改善という観点から、他者あるいは自己の現在以上のプラスないしマイナスの働きかけがなされたらという想定のもとに、自己の他者に対してもつ好意度と他者の自己に対してもつ知覚された好意度との力動的関係をパーソナリティの罰性に関する側面から追究してきた。そしてその結果に基づいて、学級内のあらゆる同性の二者関係の改善性を予見しようとする表の作成を試みてみた。今回はこの予見表の実効性について、相互に「同質」なペアをもつて検討したが、このようにしてとらえられた対人感情とその知覚との力動的関係が関係改善への潜在的積極度として有効な指標とみなされうる方向にあることが確認された。

426 学級の集団 status factor analysis

—Cluster Method との比較研究

○古籟安好 菊池章夫(福島大学)

S_3 は和歌山・秋田・福島の各県の市町村中学 1, 3 年男女 811 名, guess who test による 20 の特性の相関表について因子分析。Cluster Method の結果と、主な点で明らかに類同。A 因子 Leadership, B 因子 Popularity, C 因子 Friendship と名づけられる。これらの典型的によい Gestalt は、中 3 男に明確である。他は変形または発達の歪みとみる。性差については、男子では人気は明朗とともに B 因子だが、女子では A の因子負荷量大。学年差もみられる。その主要な点は不明。協力は中 1 では A と C にまたがるが、中 3 では C 因子にかたま

る。独立は中 3 で A に定着する。信用は中 3 男で定まり A。1, 3 年 C 因子。責任は 1 女 C, 1, 3 男では A 因子の負荷量大。

427 児童集団内における個人間の

親和反発の偏倚傾向

—社会的知覚を歪める自我的欲求の要因

田中熊次郎(東京学芸大学)

ソシオメトリックテストにより、集団成員間の親和反発の反応をみると、各次元の分析において、これらの反応が一部の成員に集中する、という偏倚傾向が示される。このことは、児童期の集団においてとくに著しい。このような偏倚の生起する原因のひとつとしては、社会的知覚が、自我的欲求によつて歪められることが考えられる。予備実験では、代表的な児童間の状況をえがいたマンガを与え、本実験では、報復者の演技と訂正者の演技を、児童には意識されないように、問題検閲者に行なわせ、表情知覚における歪曲をしらべた。その結果、いずれの場合においても、満足を与える相手の表情は快、不満を与える相手の表情は不快に認知されることがわかった。

428 場面・集団活動に関する一考察

—物媒介の対人関係活動の

もたらす場面転換について

○野口はつ江(青山学院大学)

黒江静子(お茶の水女子大学)

集団が「物」を媒介としながら、どのように場面を変容させるかを明らかにして、集団と「物」を場面の間の相互作用をとらえた。方法は、活動空間の広いもの・狭いもの、場面活動の媒介物として玩具を用意したもの・ねこ(生物)を用意したものとの組み合わせの場面での幼児 3 人集団の行動を観察し、次の 3 つの基準に従つて分析した。1. 場面転換の条件としての場面の性質、集団と「物」の関係、集団内関係、場面—「物」—集団の 3 者間の優位性、2. 場面転換をもたらす契機とその要因、3. 場面転換をもたらす契機への集団の働きかけ、および場面転換の仕方。その結果、「物」の機能の仕方によつて場面転換の性質に差異がみとめられた。

429 同調行動に対する判断材料の

提示と情報伝達の順序効果について

○脇勝嘉(鹿児島大学)

実験手続き：S—服従的性格の中学生 100 人。実験協力者—支配的なもの 34 人(DC), 服従的なもの 170 人

発表要旨・討論の概要

(SC)。実験材料—12個の黒点を短時間15回提示して、この数を判断させる。結果：(1)黒点を先に提示し、その後級友の判断(Eが作為したもの)を伝達する実験5Aとその逆の実験5Bとでは、ともに同調者数が非同調者より有意に多いが、5AではSCへの同調者がDCへのそれより有意に多い。しかし5BではDCへの同調者が有意に増加して両者の間に有意差はない。(2)5Bでは女子の非同調者が有意に少なくなる。(3)Sは、大小2種の判断の伝達の先後にかかわらず、材料提示が先の場合も、他人判断の伝達が先の場合も、ともにより小さい方の判断に同調する傾向がある。

430 ソシオメトリック・テストの制限数に関する一検討

上田 敏見(奈良学芸大学)

クラス編成後約10か月を経た小学校5年生3クラス、3年生3クラスに、本年2月上旬～下旬、制限数を無制限・5人・4人・3人・2人・1人としたソシオメトリック・テストを実施し、これらSSS相互間、ならびにクラス全成員による5点尺度の評定得点とこのSSSそれぞれとの相関をとらえようと試みた。粗点をすべて標準得点に変換し相関 r を算出した結果、一般に、制限数が減少すると、評定および無制限形式との相関は低くなる傾向が認められた。評定得点と各種制限数を用いて得たSSSとの相関は、このサンプルに関するかぎり、一貫して5年生が3年生より低く、5年生ではテクニックの差により一層鋭敏に反応する傾向が示唆された。

431 低学年児童の社会測定的地位と行動特徴との関連性について

上田 敏見(奈良学芸大学)

○中上 猛(奈良県中央児童相談所)

小学校2年生2クラスに、1か月間隔で4回ソシオメトリック・テスト(3人制限)を無記名で実施し、児童の学級集団における社会測定的地位(CRS)の上位群(17名)、下位群(15名)を作り、その両群に、学力検査(国, 社, 算, 理), 知能検査(京大NX式), 親子関係診断テスト, P-Fスタディを実施し、両群間の比較検討を試みた。その結果、学力・知能・親子関係診断テストにおける消極的拒否, 厳格, 期待, 干渉, 不安, 溺愛, 矛盾, 不一致に、また、P-Fスタディにおいては、外罰—障害優位型(F'), 外罰—自己防衛型(E) E-E%において、それぞれ有意の差(5%水準以下)がみとめられた。

432 家庭の社会的地位と児童の交友関係

—日本とタイの小学校についての比較研究

三宅 和夫(北海道大学)

学校内の児童間の結合関係に家庭の階層がいかん反映しているか、それには発達的变化, 社会文化による差異があるかを検討するため、日本とタイの都市小学校の学級にソシオメトリック・テストを施行した。教師等の評定で階層を上中下に分け、中と下について比較したところ、被選数平均は、9才、10才では差がなく、11才では、いずれの場合も、中の方が有意差をもつて大であった。層相互の選択関係では、日本の方は、9・10・11才とも中が中を多く選ぶ傾向があり、11才では下が下を選ぶことが少ない。タイの方は、9・10才ではなんら階層が影響していないが、11才で中が中を多く選ぶ傾向のみが見られた。(3位までの選択について、実測値の適合性を検定)

討論の概要

質疑討論の経過

この分科会では、発表取消しが2つあり10の発表が行なわれた。40人余の参加者があつた。質疑と討論に入つて、

古簀(福島大)は大橋(福井大)の「学級内における対人知覚(VII)」に対して「Heiderの仮説をかいつまんでいえばどういうことになるか」と質問した。大橋の研究は、これまで継続的に発表されたものの一部をなすもので、Heiderの理論の検討を、小学校6年生を使いある級友が他の級友に対してもつ態度を質問紙によつて答えさせた資料の分析研究をもとに試みている。大橋はPからQに対する態度を R_1 , Pからqへを R_2 , qからQへを R_3 とあらわした。この3つの態度には+-の2つのカテゴリーがそれぞれにある。この態度のうち2個が-で、1つが+のとき安定した関係にある。多くの材料で検討してみると、たしかにHeiderのいうとおりでである。たとえば R_1 が+, R_2 と R_3 が-のときはHeiderの仮説のとおりになる。 R_1 が-, R_2 が+のときは R_3 が-になる傾向がつよいはずである。しかし自分の結果では R_3 が+になつてHeiderの仮説と一致しないと答えた。古簀はかさねて、「態度の+-がはつきりしないで不安定の場合もあるはずであるが、それはどう考えたらよいか」と質問した。大橋はHeiderの理論では+-の2つの方向しか考えていないが、ゼロのカテゴリーを考えてみた。現実には2つの方向だけでなく、もつと多くの要因によつて規定されていると考えられるといつた。

Annu. Rep. of educ. Psychol., VOL. II

ality, Children's teacher-image, Corporal punishment on the pupils given by the teachers who are not in charge of the class, Manipulating pupils' evaluations to their teachers, Problem children, School-mistresses, etc.

As for the problem of the corporal punishment on the pupils, it was stressed that we should make a thorough study both of the psychological process leading to such corporal punishment and of the merits and demerits of the data gathered by means of recollection.

In connection with the pupils' evaluations of their teacher, the need of keeping the data on teacher's character was emphasized.

On the subject of "problem children"; we debated how to diagnose problem children.

12. Group dynamics and classroom groups

Chairman: K. Yamane and K. Ando.

423. Acceptance-rejection of a suggestion. Kohei Suzuki, University of Nagoya.

424. A study on interpersonal perception in the classroom (VII).

Masao Ohashi, Fukui University.

425. On the prediction of the possibility of improvement of the interrelationships among class members. Masayoshi Osada, University of Nagoya.

426. Factor analysis of the "status" in the classroom. Yasuyoshi Furuhata and Akio Kikuchi, Fukushima University.

427. Bias-tendency among members in child group—distortion of social perception by ego-needs. Kumajiro Tanaka, Tokyo Gakugei University.

428. A study on the group-situation activities—on the change of situation caused by the person-object interaction.

Hatsue Noguchi, Aoyama Gakuin University and Shizuko Kuroe, Ochanomizu Women's University.

429. The effect of the method of presentation of the materials upon the conforming behavior.

Katsuka Waki, Kagoshima University.

430. A study on the number of sociometric choice. Toshimi Ueda, Nara Gakugei University.

431. On the relationships between the sociometric status and the behavior pattern among 2nd graders. Takeshi Nakagami, Nara Child Guidance Clinic and Toshimi Ueda, Nara Gakugei University.

432. Socio-economic stratum and friendship relation among Japanese and Thai school children—A cross-cultural study. Kazuo Miyake, Hokkaido University.

Discussion

Ten individual papers about various approaches to this theme were read.

Many of them (for example: K. Suzuki, M. Ohashi, H. Noguchi, K. Waki) are experimental social psychological studies.

K. Miyake reported a cross-cultural study of Japan and Siam on the human relations of school children.

Intensive discussion by approximately 50 participants proceeded. Central topics of the discussion were the technical problems concerning the reliability and validity of sociometric test in measuring the interpersonal relations in classroom. (T. Ueda and T. Nakagami's papers). Some participants expressed the negative view with regard to its reliability, but the positive view was also stated by another insisting the peculiarity of the sociometric test as compared to ability tests.

Since the sociometric method is a static study of the human relations, the importance of the dynamic approaches to the interpersonal relations in time sequence was stressed.

In this regard, M. Osada's paper, the experimental approach to the improvability of human relations through dynamic interaction between interpersonal perception and feeling was of interest. Y. Furuhata's factor analytical study of variables related to the "status" in classroom of junior high school, and K. Tanaka's experimental verification of ego-need factors which influence inter-member social perception by means of cartoon also attracted attention.

13. Environmental influences upon achievement